みどりの風

令和５年６月１日発行
校　報　　６０９号
（みどりの風　１５２号）
練馬区立関町北小学校

バスの運転手さん

校長　　吉川　文章

先日の全校朝会で以下の話をしました。

今日は、私が、石神井公園という駅の前から成増駅までバスに乗って通勤していた時によく見かけた運転手さんの話です。

「次は、光和小学校前です」とアナウンスをした後、その運転手さんは、バスが止まる前に「光和小学校前です」と乗客に向かって声をかけられます。私は、初めて出会った時は、ずいぶん丁寧な運転手さんだなと思いました。運転手さんは、乗ってくる乗客の方一人一人に「おはようございます」と挨拶をされます。私はバスの一番前の席に座ることが多いので、運転手さんの横顔がよく見えます。その運転手さんは、いつも笑顔で挨拶をされています。笑顔を見るたびに心が温かくなります。バスを降りる人には「どうもありがとうございます」「気をつけていってらっしゃいませ」と声をかけられます。「曲がります。お立ちの方は、つり革におつかまりください」「しばらく停車いたします。発車までお待ちください」などの乗客の方への安全などの気遣いなどもしていらっしゃいます。２５分くらいのバスの時間です。いつもは、窓の外の景色を眺めているか、ぼうっと考え事をしているかどちらかですが、その運転手さんが運転されるバスに乗った時は、運転手さんの一言、一言に心が温かくなり幸せになります。バスを降りるとき、「ありがとうございました」とお礼を言うと、運転手さんの「こちらこそありがとうございました」の言葉と笑顔が返ってきます。

思い切って、「いつもこんなに丁寧なアナウンスをされているのですか」と質問をしたことがあります。すると、「乗客の方々が、少しでも安心して安全にバスを利用し、よい気持ちで仕事や学校に行ってくだされば と思いやっています」と答えてくださいました。今まで、バスに乗っても、そういった運転手さんはいらっしゃいませんでした。そこまでのサービスは、バス会社で決められた仕事の内容には入っていないのでしょう。おそらく、運転手さんなりに考えられた心遣いなのでしょう。

「おもてなし」という言葉があります。お客様に接する時の日本人ならではの気遣いのことだそうです。相手のことを思いやり、どうしたら嬉しい気持ちになってくれるか、ちょっとした心遣いをすることでみんなが幸せになる。これは、学校生活の中でもきっとできることでしょう。この心遣いは、6年生が最高学年として、委員会やクラブ活動などで、今まで取り組んでくれていることでもあります。そして岩井移動教室でもきっと行動に現してくれることでしょう。

周りが幸せな気持ちになる行為は、実は自分を大切にすると共に自分を成長させてくれる行為でもあります。今日の話を友達とかかわるグループでの学習や活動、係仕事、給食や掃除の場面などで生かして欲しいなと思います。

「おもてなし」という言葉は、江戸時代から始まったようです。高学年は興味があれば調べてわかったことを教えてください。今日の話、クラスで話題にしてみてください。

各家庭でも、お子さんに「ちょっとした心遣い」について機会ある毎に話題にしていただき、励まし認め、進級・進学への意欲につなげていただければ幸いに思います。